

シグマ研究委員会炉定数専門部会
Fast FP Working Group 会合議事録

日 時 1972年9月19日 13.00~17.00
場 所 原研本部第3会議室
出席者 飯島(NAIG), 松延(住友), 菊池, 田坂, 西村(秀) (以上
原研)
配付資料 COOK, ENDF/B-3, BENZI-REFFOおよびBENZI
-PANINIの相互比較プロット

議 事

1. 報告(菊池)

- (1) FP断面積の比較プロットを重要核種(28核種)について行なった
(配布資料)
- (2) COOKの184核種のデータを処理して70群および25群の群定数
を作成した。 $\sigma_t, \sigma_{el}, \sigma_{in}, \sigma_{nr}$ が処理されている。 σ_{tr} については

$$\sigma_{tr} = \sigma_t - \frac{2}{3A} \sigma_{el}$$

で計算されたものがデータとして収録されていたので処理しなかった,
FACOM, CDC およびIBM用のテープが作成されている。CDCお
よびIBM用のテープは核データ研にある。

2. ^{101}Ru について

- (1) 大竹氏の重要核種中にないが重要である。
- (2) 調査し核データグループに連絡する
- (3) COOKにはデータがある

3. COOKのデータについて

- (1) Statistical regionからresonance regionへ移るあたりが問
題である(菊池)

4. 比較プロットの検討(配布資料)

- (1) 実験データのあるものは一致がよい

- (2) くい違いがある場合は BENZI が概して高い
 - (3) 個々の核種の断面積が必要なものについては別途検討する必要がある
 - (4) 実験データのリストを送付する(松延)
 - (5) 青ヤキを核データグループにも配布する必要がある
 - (6) RI(resonance integral) でチェックすると面白い(飯島)
5. σ_{in} マトリックスについて
- (1) 蒸発模型を用いる
 - (2) yield の peak 近傍でパラメータを決める
6. Yield(Lump 化の際に用いる)について
- (1) Time の選定は適当にある程度こまかく
 - (2) chain は β -decay のみとする。
 - (3) capture chain について、引続きやっってはどうか
 - (4) 初期 yield は ENDF/B-2 のデータをさし当り用いる
7. その他

中性子断面積研究会, IAEA の会議, σ_{in} および σ_{el} のプロット実験データとの比較プロット等について議論があった。